

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/ 第0059号
護國青年會議機関紙 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成21年3月17日

政界に激震、小沢一郎 民主代表 第一秘書 逮捕!!

西松献金疑惑事件、民主に大打撃 自民にも波及

政界に激震が走った。民主党代表の小沢一郎の公設第一秘書大久保隆規容疑者が政治資金規正法違反(虚偽記載)の疑いで逮捕された。政権奪取に王手をかけたといわれている民主党代表の公設第一秘書逮捕という前代未聞の不祥事は今後大きな波紋を投げかける事は間違いない。時折しも三月三日はひな祭り「灯りを点けましょ、雪洞に」ではないが「お縄をつけましょ、代表に」となるかどうか今後の成り行きが注目される。



大久保容疑者

虎の威を借る大久保容疑者

逮捕された陸山会の会計責任者、大久保隆規容疑者は岩手県釜石市の出身。県立釜石南高を卒業後、地元の実業会社に勤務しながら、一九九一年の釜石市議選に出馬、初当選した。二期途中の九十九年四月には、現職の引退に伴う釜石市長選に三十七歳で立候補。自民党と自由党の推薦を受けて無所属で出馬した、当時自由党党首だった小沢一郎の応援も受けたが、約千三百票差で落選した。小沢一郎の公設秘書になったのはその後で、同県の民主党関係者によると、大久保容疑者は小沢一郎の秘書団の中で事実上ナンバーワンの地位にあり、小沢の「名代」として衆院選に立候補を予定する全国の陣営を訪ね回っていたという。ま

た別の関係者は「大久保は民主党候補や建設業者に対して『公認を外すぞ』とか『小沢に言ってもいいのよ』などと恫喝していた。まるで虎の威を借る狐のようだ」と話している。嘗て小沢が田中角栄や金丸信、竹下登等の権力を笠に着て傍若無人に振舞っていたこととオーバードラップするまさに、この親分にしてこの子分ありといったところだ。

大悪党小沢と小悪党二階

小沢の片腕とも言える公設第一秘書の逮捕は、民主党に甚大な打撃を与えた。逆に終始劣勢に立たされていた自民党にとって息を吹き返す絶好のチャンスとなる筈だったが捜査の手は麻生内閣の経産相二階俊博まで及んだ。二階と小沢が因縁浅からぬ仲だとい



小悪党・二階俊博

うことは周知のことだ。この二人に共通して言えることは前々からカネにまつわる噂が絶えなかったこと、支那に阿ることで人後に落ちない点である。だが共通点があるからといって、小沢と二階を同一視するのは極めて危険なことである。何故ならば巨悪小沢一郎からすれば二階などは小悪党若しくは小悪党見習いに過ぎないからだ。

第一秘書逮捕を受けて小沢は記者会見の席上、検察批判を高々とぶち上げた。巨額な献金で世間を騒がしたと国民の政治不信に拍車をかけたことを謙虚に謝罪するかと思っただが喧嘩らんや、この種の問題で逮捕したり強制捜査したりするやり方は民主主義を危うくするものと考えている。こじつけたような理由で検察権力を発動することは非常に公正を欠くと思う」と検察当局と真つ向から対決する姿勢を露わにした。

こうした検察批判は民主党の幹部も同様で、幹事長の鳩山



大悪党・小沢一郎

由紀夫を始めとする執行部は「国家権力と検察の陰謀で国策捜査だ」と決めつけ、検察を罵った。

李(すもも)の木の下で冠が曲つているのを直すと、李を盗んでいるのかと疑われるように、政治家たるものは嫌疑を受けやすい行為はさけるべきだ。己の恥ずべき行為は棚上げにしての検察批判は実に醜く破廉恥極まりないものがある。小沢のような政治家は国家にとって百害あって一利なしだ。この事件を機会に是非政界から去って欲しいものだ。

かつてカルトの教祖が「国家権力の横暴だ」と虚勢をはり続け、教祖を妄信する信者らが激しく抵抗する中、逮捕された事件があった。民主党の幹部がやっていることは、オウムの信者と同様で、小沢の虚勢は麻原を彷彿させるものがある。悪行のかがりを尽くした麻原は囚われの身だが果たして小沢はどうなるのか楽しみは尽きない。 編集人

間近に迫った!?!小沢の参考人聴取

西松事件は氷山の一角

捜査によって解明されつつある「闇献金ルート」は自民党の議員へも波及しているが、いずれも小沢一郎が事務所を通じて確立した「小沢ルート」で、この小沢ルートから西松建設のみならず、他の建設会社へもパイプラインが延びていたことが間もなく判明するだろう。これらが立証されれば必然的に本丸は小沢であることが明確となり、西松建設の事例は「氷山の一角」であることがはつきりするだろう。その意味で小沢一郎の秘書逮捕と、元秘書の民主党衆議院議員・石川知裕の参考人聴取は、捜査の優先順位を踏まえる上からも、ごく当然の成り行きと言える。



国沢 容疑者

以前から小沢の強欲な錬金術について独自取材を展開しているジャーナリストの松田賢弥氏は「いま西松建設の裏献金がやり玉に挙がっているが、これは氷山の一角だろう。西松建設を含めたゼネコン各社のパーティ券購入代金がすべて表沙汰になったら国民の

想像を超えた巨額献金が小沢一郎の元に上納されていたことが明らかになるだろう」と指摘している。

現在、東京地検特捜部は松田氏が指摘しているゼネコン各社との間にある類似した事例の数々を捜査している。小沢は「なんらやましいことはない」とシラを切っているが、何の見返りも求めない巨額献金などするバカはいない。逮捕された西松建設前社長の国沢幹雄容疑者は、東京地検の調べに対して「献金はダム工事などを受注するためのものだった」と重大な供述をしている。事実、西松は平成九年から十九年までの十年間で小沢のお膝元である岩手県の県営工事を十四件も受注している。そしてその総額たるや実に二百八十二億千六百十五万円にも上っている。この事実が「献金はダム工事を受注するためだった」とする国沢の供述を見事に裏付けている。

特捜部は小沢が築き上げた闇献金ルートの究明に心血を注いでいる。田中 金丸 小沢と三代に亘り連綿と受け継がれてきた金権体質に鉄槌が下された時が小沢逮捕の日だ。天網恢恢疎にして漏らさず。お天道様はお見通しだ。

編集人・戸出蒼流

どうなる政権の枠組み、小人の危惧と憂鬱

小沢が逮捕されても次期衆議院選挙における民主党の優位は変わらないと思うが、西松の一件が民主党内に混乱を起し、かなり微妙な選挙戦になるのではないかと思う。特に小沢一郎は選挙のプロとしての役割が大きく、それが党中枢から消えることは民主党にとって相当な痛手となるはずであり、そのことが民主党内に「小沢おろし」が広まらない要因となっている。

小沢の公設第一秘書逮捕で、これまで政権交代に向って順風満帆であった民主党に猛烈なアゲンストが吹き始めたのは確かなことである。それならば与党が俄然有利になったのかと言えば「ノー」である。筆者の希望的推測では、民主党は勝つには勝つが、中途半端な勝利で単独過半数に届かず、連立を組むこととなるだろう。安定多数を自論む民主党が公明党に触手を伸ばした時、筆者のような小人の危惧と憂鬱が始まる。そしてそれは、自民党が今のような体たらくを続ける限りエンドレスとなる恐れが生じる。

民主党が政権を取るとは保守側にとって悪夢である。さらにそこに公明党が加わるということになれば最悪の政権となってしまう。自民党が崩壊しに支持を失ってきた大きな原因の一つは公明党絡みの政策にあると断言できる。迷走に迷走を続けた定額給付金も元はと言えば公明党が自民党にこり押しして始まったものだ。公明党は言うまでもなくカルト教団創価学会の政治部門、すなわち憲法違反の宗教政党だ。公明党の議員は全員カルト信者であり、彼らは国民の生活を豊かにすることを目的に政治家になつたのではなく、創価学会というカルト教団の長である池田大作個人の願望実現のために政界に送り込まれた小間使いに過ぎない。

一方の民主党は、ご存知の通り、右と左がごちゃ混ぜとなつた寄り合い世帯で、国家の根幹をなす憲法や安全保障では両極端の意見が轟く味噌と糞が一緒になつたような集団である。前述したように民主党が政権をとることは保守側にとつては悪夢であるが、公明党と連立を組むようなこととなつたら憲政史上最悪の政権となるだろう。

政治の混乱が続く我が国において、今後とも与野党入り乱れての醜い争いが続くことだろう。その混乱の中で、保守はその真価が問われることになる。大同団結ができないのであれば互いの行動に口を挟まないで自分が理想とする運動を展開し、着実に成果をあげていけば良いのだが、保守同士の足の引っ張り合いどころか、首の締め合いに発展しかねない現状をみるにつけ、この混乱の時代の行き着く先を憂えずにはいられない。

編集人



祝祭日には国旗を掲揚しましょう